特集

地域共生社会の実現に向けて

コミュニティソーシャルワーク研修について

宮城県の地域福祉をめぐる課題と動向

近年、少子高齢化の進行、核家族化や単身世帯の増加、価値観の多様化等により、家庭や地域、職場など社会が持っていた支え合いの機能が低下し、連帯感の希薄化が進んでいます。このような状況の中、これまでの対象者別・機能別に整備されてきた公的支援では対応が難しいケース、一つの世帯に複数の課題が存在するケース、例えばダブルケア（育児と介護を同時に担う問題）や8050問題（80代の親が50代のひきこもりの子どもを支えるという問題）などが浮き彫りとなっています。

このようなケースへの対応には、それ以上課題が深刻化しないよう早期に発見する仕組みを整え、必要な支援に結びつけることが大切です。誰もが役割を持ち、時に支え合うことで、孤立せずに住みなれた地域で安心して暮らしていける社会を構築していくことが求められています。この過程におけるキーパーソンが、コミュニティソーシャルワークの視点を持った人材であり、その育成が必要とされています。

コミュニティソーシャルワークの視点を持った人材育成に向けた研修について

本会では、平成25年度から今日まで、コミュニティソーシャルワーク実践研修（基礎編）とコミュニティソーシャルワークステップアップ研修（応用編）を実施しています。

この研修は、社協職員だけでなく、地域包括支援センターや福祉事業所、児童相談所など幅広い職種の方が受講しており、平成25年度から令和5年度までに、延べ451名が受講しています。また、このことで県内全域にコミュニティソーシャルワークの視点を持った人材の広がりを確認できますが、ここでは過去に研修を受講した、柴田町社会福祉協議会（以下「柴田町社協」という。）次長の加茂三弥（かもみつや）さんと、仙台市鶴ケ谷地域包括支援センター（以下「鶴ケ谷地域包括」という。）の村田佳織（むらた　かおり）さんへのインタビューを通して、この研修で得られる価値について再確認したいと思います。

	実践研修（基礎編）	ステップアップ研修（応用編）
目的	コミュニティソーシャルワークの基礎的な知識や技法を習得するとともに、地域における包括的な支援体制の構築に向けて、実践力を養う。	地域のニーズ把握・分析から社会資源の開発や改善、地域の社会環境の変化に応じたコミュニティソーシャルワーク実践の応用展開力を習得する。
対象	2日間通して参加が可能な方で、社会福祉協議会職員、自治体関係者、地域包括支援センター職員、社会福祉法人職員、生活困窮者自立相談支援機関職員等	2日間通して参加が可能な方で、(1) 又は (2) に該当する方 (1) 県社協又は県が主催して実施したコミュニティソーシャルワークに係る研修の受講生 (2) 地域福祉に携わる職場に勤務し、勤続年数が10年以上の者
内容	1日目 ❶講義：コミュニティソーシャルワークの役割と機能 ❷実践報告：県内の実践者からの事例報告 ❸演習：事例を用いた演習（個別アセスメント） 2日目 ❶演習：事例を用いた演習（アセスメント及びプランニング） ❷全体のまとめ	1・2日目 ❶講義：コミュニティソーシャルワークの必要性、コロナ禍の長期化による地域福祉課題や事例等 ❷演習：受講者自身が体験した事例を用いた演習（アセスメント及びプランニング）

本研修受講者へのインタビュー

❶コミュニティソーシャルワーク研修を受講したきっかけを教えてください。

柴田町社協　加茂さん

もともとコミュニティソーシャルワークには関心がありました。そんな中、地域福祉研究者のトップランナーである、法政大学の宮城孝教授がこの研修の講師であることを知り、受講に至りました。

鶴ケ谷地域包括　村田さん

第9期介護事業計画の中に、「地域共生社会の実現」というワードが取り上げられていて、地域包括支援センターとしても、地域共生社会の実現に取り組んでいきたいという思いがありました。また、近くに特別支援学校があり、福祉事業所や障害福祉サービス事業所との関わりが強いことを活用して、地域づくりを行うための手法や知識を学びたいと思い受講しました。

▲柴田町社会福祉協議会
次長　加茂三弥さん

❷研修で得たことは、日頃の業務のどのような場面で活かされていると感じますか？

柴田町社協　加茂さん

8050問題や生活困窮、制度の狭間等の複合的な課題を抱えた世帯の相談が増えています。個別支援、地域支援を一体的に捉え推進していくために、地域・社会資源の把握やニーズの明確化、関係機関と調整しながら地域づくりを主軸とした包括的な支援体制を意識していく必要があります。このような相談業務の場面で学びが活かされています。

鶴ケ谷地域包括　村田さん

地域との関係構築の大切さを実感し、避難訓練などの地域主体の行事に、意識的に参加するようになりました。地域の行事に参加することで、徐々に地域包括の存在を認識していただけるようになり、住民から「〇〇してほしい」との要望や、「フレイルって何？」という説明を求められるようになりました。

❸今後、コミュニティソーシャルワークを実践する上で、大切にしたい姿勢や取り組みたいことを教えてください。

柴田町社協　加茂さん

①多職種・多機関との連携、②社会資源の開発、③住民との協働を大切にしていきたいと考えています。例えば、池に溺れている人を自分一人で助けようとすることは難しい。一緒に助けてくれる人や、道具や知恵が必要です。地域課題を支援する際も同様で、課題解決に向けて一緒に知恵を出し合って支援する人が必要です。地域生活課題に取り組む際も同様で、地域全体で支援していく仕組みソーシャルサポートネットワーク体制が大切だと思っています。

鶴ケ谷地域包括　村田さん

他職種との連携を強化していきたいと思っています。もともと、障害福祉サービス事業所とは関わりがありましたが、管内には様々な事業所があるので、つながりの幅を広げるためにも、協働で地域のイベントを企画するなどの姿勢を大切にしていきたいです。

▲鶴ケ谷地域包括支援センター
村田佳織さん

❹最後に、今後研修の受講を考えている皆さんに向けて、一言お願いします。

柴田町社協　加茂さん

個別支援から地域支援へという考え方や手法を学びステップアップして、包括的な支援体制づくりに向けて取り組んでほしいと思います。近年、CSWは生活のしづらさを解決するための専門職として期待されています。是非、価値あるこの研修を受講していただきたいです。

鶴ケ谷地域包括　村田さん

地域で暮らし続けることを念頭に考えれば、例えば障害のある若者や中年の方がいれば、その方達はいずれ高齢者になり、介護福祉サービスを利用する可能性が高くなるので、分野を超えた関係づくりが大切だと思います。「私には関係ない」と思わず、当事者が望む「自分らしい生活」をサポートしていくためにも他分野との連携が必要ですので、様々な分野の方に受講していただきたいです。

最後に

本研修は実践的な内容に着目しています。現場で必要な「知識・技術・哲学」を学べるだけではなく、多くの関係者と人脈を広げる機会にもつながり、実践上の様々な疑問を解消していく機会でもあります。これらが本研修の目的でもあるので、是非受講していただき、地域福祉の推進に役立てていただければ幸いです。今後も、本会ではコミュニティソーシャルワークの視点を持った人材育成に向けて、研修内容の充実を図り、「地域をともに創っていく社会」の形成を目指します。来年度も本研修を実施予定です。準備が整い次第、本会ホームページなどで御案内しますので、御確認いただければ幸いです。